

巻頭言**「高砂や」はなぜ結婚式で歌われるのか**

街 ing では5月30日(金)に兵庫県高砂を訪ねます。4ページに案内書を掲載しています。昭和の結婚式の定番といえば「高砂」。「高砂」がめでたいとされる理由は何なのでしょう。

歴史的背景

「高砂」は、もともと「能」の舞台で使用されていた演目です。能においては、舞台上で神々や霊的な存在が登場し、人々の幸福を祈るという要素が強調されます。そのため、祝宴や結婚式においても、能の要素が取り入れられ、めでたい席で「高砂や」が歌われることになっているのです。

歌詞の内容

「高砂や」という歌は、「高砂や この浦舟に帆を上げて」という歌詞がよく知られています。この歌詞には、「高砂」と「浦舟(うらぶね)」が登場します。「高砂」というのは、兵庫県にある高砂市を指し、「高砂の松」という有名な松の木があります。この松は、長寿の象徴とされています。そのため「高砂」という地名自体が、縁起が良いとされているのです。この松は高砂神社の境内にあり、今回の散策で見学できます。そこには「相生(あいおい)の松」という黒松(雄)と赤松(雌)とが一つの根から生え出た松の木があり、「夫婦は深い契りで結ばれて、共に長生きする」ことを象徴しています。

次に、「浦舟(うらぶね)」というのは、海を渡る舟を指しています。舟は旅立ちや新しい始まりを象徴することが多いのです。これが結婚式や祝いの席で使われることで、人生の新たな旅立ちや門出を祝う意味合いを強調しています。

「高砂や」の続きは

高砂や、この浦舟に帆を上げて、この浦舟に帆を上げて、月もろともに出で潮の、波の淡路の島影や、遠く鳴尾の沖過ぎて、はや住江(すみのえ)に着きにけり、はや住江に着きにけり。意味はだいたい分かりますね。

演目のあらすじ

兵庫県高砂の浜辺に旅人が通りかかると、上品なおじいさんとおばあさんが浜辺の掃除をしていた。話しかけると、「自分たちは松の木の精である」と正体を明かし、「長い間夫婦として仲良く暮らしてきた」、と旅人に告げる。さらに「海の神様に旅の無事を頼んであげる」と言う。旅人は再び舟に乗り、無事に目的地の住江に着くことができた。

このストーリーは室町時代に能を完成させた世阿弥の作と言われており、夫婦愛、長寿の理想を表わした能の代表作とされています。高砂神社でこの松とご対面し、これからの長寿をお願いすることにしましょうか。

夫婦愛や長寿を壽ぐ謡曲「高砂」由来の“レトロ高砂まち歩き”

2025年5月30日(金)

「高砂や、この浦舟に帆を揚げて・・・・・・はや住之江につきにけり」と、婚礼・正月などの祝言歌として定番の謡曲“高砂”。その歌詞は、室町期の猿楽師・世阿弥による能楽に由来し、今なお端唄・謡曲・地歌として歌い継がれている。

その故郷として知られる高砂市は、兵庫県南部播磨平野の東部に位置していて、東に加古川が流れ、南に瀬戸内播磨灘を望む、白砂青松の風光明媚な景勝地として古来知られている。

また、江戸期には北前船の主要な寄港地として大いに栄え、現在の街並みなどに当時の殷賑を極めた面影を厳かに忍ばせている。



高砂神社・相生の松

十輪寺・本堂

さあ、風薫る美しき五月です。摂州・茨木の遊び仲間が共に連れ立ち、五感（視・触・聴・嗅・味）や第六感（直観）など人の持てる知覚の全てを駆使して、“レトロ高砂まち歩き”に繰り出そうではないか！

案内人：牧 彰（会員）

-
- ◇参集地：阪急「茨木市」12時（時間厳守）
 - ◇順 路：「茨木市」12：15⇒「新開地」／山陽「新開地」⇒13：48「高砂」～（高砂市内観光）～夜の宴（17：00～18：30）～「高砂」19：00⇒20：36「茨木市」
 - ◇見学先：梅が枝湯・旧国鉄高砂駅・十輪寺・申義堂・魚町倶楽部・高砂神社・旧工楽邸・三連蔵・商工会議所・銀座商店街 — 2時間30分コース
※高砂市観光交流ビューロー「結びん」☎079 - 441 - 8076
観光ボランティア案内に乞うご期待！
 - ◇資料代：300円（観光案内資料）各自払い
 - ◇夜の宴：瀬戸内料理「そらまめ」☎079 - 443 - 1735 高砂市高砂町鍛冶屋町 1416 - 1
・穴子せいろ蒸しセット 2,530円 ・茶蕎麦セット 2,200円
 - ◇定 員：凡そ12名程度一締切り4月3日（木）—
 - ◇交通費：1310円（茨木市～高砂）×2＝2620円
 - ◇申込先：「街ing いばらき」代表・阪田 浩（080 - 1436 - 9881）

Tel&Fax／072 - 627 - 3480 E-mail／ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己負担でご対応ください。

「富田」あれこれ

街 ing では、2025 年 2 月 8 日(土)に富田地区を散策しました。茨木と高槻の間という認識でしたが、酒造りの街、歴史の町として多くの見どころがありました。

なぜ摂津富田なのか

JR の最寄り駅は「摂津富田」で、1924 年(大正 13 年)に開業しました。当時の所在地名であった三島郡富田村に由来しています。当時、三重県に富田駅(読み方は「とみだ」JR 東海・関西本線)があり、30 年前の 1894 年(明治 27 年)に開業していました。重複をさけるため「摂津富田」の駅名になりました。

大宅壮一

大宅壮一は 1900(明治 33)年、富田の醤油屋に生まれました。現在の茨木高校に通い少年雑誌に作文や俳句を投稿していました。3 学年上に川端康成がいました。米騒動に際して民衆蜂起を支持する演説を行い、放校処分になるも、京都大学に通い、東京大学にも入学しました。社会評論家、ジャーナリストとして活躍し「太陽族」「駅弁大学」などの新語を作りました。1970(昭和 45)年逝去(70 歳)。弔辞を読んだのは川端康成でした。

大宅壮一と川端康成は 1965 年茨木高校創立 70 周年記念式典に招かれ講演をしています。この会場に街 ing の中村さんと阪田さんがいました。あれから 60 年。茨木高校の卒業生で、この二人を超える人物は現われていません。大宅壮一はそれほどの人物だったんですね。

芭蕉の一番弟子の回文

今朝たんと 飲めやあやめの 富田酒 けさたと のめやあやめの とんたさけ
江戸の俳人・宝井其角(たからいきかく)は 14 歳で芭蕉に入門、弟子のトップになりました。酒好きの其角が富田に立ち寄ったときによんだのが、この回文です。下からよんでも同じ文になります。「あやめ」は富田の酒の銘柄でもありました。パツとひらめいたのならすごいですね。

富田と富田

<今回の散策とは関係なしですが、富田つながりで>

人名の富田は「とみた」と読むことが多いです。一方「富田」と表示し、点のつかない「富田」さんもおられます。この差は、「本家」か「分家」か どうかにあります。本家は点がつく「富田」、分家は点がつかない「富田」。「とみた」という名字が生まれたのは鎌倉時代の頃とされています。先に生まれたのは「点のつく富田」。「富」の漢字をよく見ると、「屋根」の下に「口」「田」があり、お米を蔵にたくさん持っていることを表しています。つまり、お米が豊「富」に獲れる「田」んぼで、「富田」となりました。鎌倉時代の説であり、摂津の富田が由来となったかは定かではありません。

「点のつく富田家」で起きたあるエピソードが「点のつかない富田」が生まれるきっかけになりました。税としてお米を収める時に、富田は「お米が豊富にとれる名字」のため、分家になり「米が獲れず役人に怒られることに悩んでいた弟」に「本家の兄」が名字を変えることを提案。米がたくさん獲れる本家を「富田」とし、米があまり獲れない分家を「富田」としました。「富田」さんには申し訳ない説ですが、街 ing には富田さんがいないので、ま、いいとしましょうか。

富田の町をたつぷりと

酒蔵のある寺内町 海鮮料理も

実施日 2025年2月8日(土)

参加者 14名 川本 阪田 阪田 笹嶋 鈴木 清野 中村 南野 南野 長谷川 牧 松岡 吉田 吉田

当日の様子

富田は地酒の名産地として知られ、池田、伊丹と並び「北摂三銘酒」の一つに数えられています。また、仏教寺院を中心に形成された寺内町でもあります。今回の散策では、茨木の隣というイメージを超えて、歴史と文化の残る富田の魅力を体感できました。二次会では、地元の有名店「幸蔵」で海鮮料理を楽しみました。案内および企画をしていただいた吉田さんと牧さんに感謝いたします。

寺内町(じないちょう、じないまちとも読む)とは

平安時代から江戸時代にかけて建設された仏教寺院を中心に形成された自治集落のこと。寺内町の呼称は町の全域が寺院の境内とみなされたことから生じたもので、参詣者相手の商業地として寺院の境外に形成された門前町とは異なります。

参加者の感想

- すぐ近くの富田にも知らない世界があるのですね。
- 「幸蔵」にはまた家族で行きたいです。
- 酒造見学の説明が丁寧で、よく分かりました。
- 酒造見学、ワクワク感がありました。
- 昼すぎの集合は参加しやすいです。



慶瑞寺(けいずいじ)。694年の創建。黄檗宗・萬福寺の末寺(まつじ本山の支配下にある寺)。2022年11月に街ingで訪ねた萬福寺の雰囲気がありました。



大宅壮一の顕彰碑。顕彰とは隠れていた善行・功績などを広く世間に知らせること。

1970年11月死去。その3日後に三島由紀夫事件があり、「大宅壮一が生きていれば、この事件をどう論評したか」と評されました。



普門寺。14 世紀末の創建と伝わる。柿葺き(こけらぶき)の屋根が見事でした。庭園は国の名勝に指定されています。手入れがよく行き届いていました。

清鶴酒造です。1856(安政 3)年創業、168 年前になります。石井社長の案内で、製造工程を見学させていただきました。分かりやすい説明で、手間ひまをかけたこだわりの酒造りを理解できました。
おみやげにいただいたお酒を毎日少しずついただいております。



清蓮寺。1584(天正 12)年建立。りっぱな松の木を鑑賞しました。松は寒い冬でも変わらぬ力強い姿と長く生き続けるのが特徴、長寿の象徴でもあります。元気で長生き、できますように。
なお、本能寺の変は 1582 年のことです。

「幸蔵」での二次会。「幸蔵」は 2024 年 3 月にテレビ大阪「おとな旅 あるき旅」で紹介されました。放送後、1 年になるのですが、店内は満員、超人気店の海鮮料理を味わいました。



新たな大門寺

清 野 征 昭

紅葉を見に行かれた方も多いと思いますが、古く小さな本堂と、時にお茶の接待があった建物を思い出されるのではないのでしょうか。

大門寺は、2023年大きく変貌しました。20年以上の歳月を掛け、宗教家で評論家の山折哲雄氏を委員長とした整備委員会で検討を重ね、境内を数倍広げ「新たな大門寺」を創りました。造園は中村一京都大学名誉教授・日本造園学会会長の設計により行われ、連日現地で指揮を執られました。

同年11月23日から4日間で、本堂落慶法会・涅槃の会・結縁灌頂が執り行われました。法会で山折委員長は、「大宗教家はほとんど大建築家。中興の祖言われる高僧たちは修行についても思想についても群を抜く仕事をされた方であるが、同時にその運動の拠点となる所に素晴らしいものを建てている。もしかすると、住職は、新しいこれからの時代のそういう伝統を引き継ぐ方になるかもしれない。建物と思想は不可分の関係。多くの人の関心を引き、興味を引き、仏教の発展に貢献するだろう」



（概略）の挨拶をされました。ここに大難工事を進められたご住職の強い思いがあると感じられます。

本堂は写真のように壮大な伽藍となり、近年これだけ規模の大きい本堂が建てられたのを



見たことがありません。又曳家で数十メートル移築した客殿（友月庵）を、新しく掘られた広い池越しに眺めることができます。瀧から落ちる水を、宇治平等院から譲り受けた砂洲を

通り池に注ぐようにしたり、境内の周囲の整備など未完の所がありますが、従来の紅葉・梅林等と共にイバキタパーク観光ルートの一つとして「**新たな大門寺**」を訪れる方も大いに増えると期待されます。

【大門寺の略歴・他】

- (1) 真言宗御室派
- (2) 開基：722年光仁天皇の長子開成皇子
(平安遷都をした桓武天皇の兄)
- (3) 本尊：如意輪観音菩薩（秘仏）・四天王は
国の重要文化財
- (4) 隆盛期：貞観年間（859～872年）頃
本堂・三重塔・御影堂・鐘楼・千手堂等
- (5) 平安末より100年程掛け、一切経数千巻
完成、現在大門寺で77巻所蔵
- (6) 建久の地震（1192年）元弘の乱（1393年）で焼失
- (7) 江戸時代再建
- (8) 豊臣秀次の後追い、重臣木村常陸介が大門寺で切腹
墓・血染めの帷子と刀を所蔵
- (9) 檀家無し



【注】・涅槃の会：梶野高山寺で講式を唱える声明の会として発足した会ですが、新堂内に響く20名近くの僧侶の声明は朗々として、今まで経験したことのない感激を覚えました。
(講式とは、法会を行う際の儀式次第を文章にしたもの)
・結縁灌頂：仏様、(今回は、秘仏 如意輪観音菩薩様)と縁を結ぶ真言密教の法義。
500名を超える方が結縁にあやかりました。

以上

次回のイベント

街歩き 4月4日(金) 大原野でお花見 JR「向日町」駅 10時集合

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日 時： 令和7年3月6日(木) 14:00～16:00

場 所： 川本本店 茨木市上泉町 6-29

- 議 題： 1. 2月8日(土)富田の酒蔵見学の振り返り
2. 4月4日(金)大原野(おおはらの)のお花見
3. 5月30日(金)の高砂散策 他

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000 円 会費 年間 2,000 円(一か月 170 円)



« 編集後記 »

- 次回の行事は4月4日(金)大原野のお花見です。参加者 河村 川本 阪田 杉田 鈴木 清野 谷木 長谷川 牧 松岡 吉田 吉田 12名。自然が残る地域での桜を楽しみましょう。
- 5月30日(金)に高砂を散策します。2ページに案内書を掲載しています。遠方ですが、この機会を逃すともう行く機会はありません。ぜひご参加を。
- 春の行事も安全に気をつけて、楽しく活動していきましょう。

« 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目 10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2025年2月現在での訪問者は10,420 <前月比20の増加> となっています。

